

# 令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【野田小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策	
知識・技能	新出漢字の学び方を工夫する。学年の実態に応じた漢字テストを作成し、再テストを実施する。単元のまとめで、主語述語や既習の漢字、同音異義語を意識して、文作りを行う。 さいたま市学習状況調査で課題であった「小数の減法・乗法・除法の計算」や「四則混合計算」の定着を図るため、児童の実態に応じた計算問題を作成し、「2分間チャレンジ」として、算数の授業で毎時間実施する。	
思考・判断・表現	「話す・聞く」機会を増やすため、全校で統一した時間を設ける。本年度実施していた暗唱チャレンジの内容を「スピーチ」とする。①相手意識や目的意識をもつ②題材を決める③情報を集める④表現の仕方を考える⑤伝える練習(暗記)する。スピーチを聞く側は感想や質問ができるようにする。 グラフやデータを正しく読取ることができるよう、各教科で読み取り方を確認し、目的に応じて考察できる場を設ける。児童が学習に関しての振り返りができる手立てを講じることで、児童の理解度や考え方を把握し、授業改善に役立てる。	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 漢字や計算などの基礎基本の定着率の個人差が大きい。算数の「数と計算」に関する領域のうち、四則計算の正答率が低い。 <指導上の課題> 学校全体で共通の取り組みを行う必要がある。	⇒ 学年の実態に応じた漢字テストを作成し、再テストを実施する。【月2回】 様々な語彙に触れられるよう、暗唱チャレンジを実施する。【月1回】 学習内容に合わせた計算問題を作成し、「2分間チャレンジ」として、算数の授業で実施する。【毎時間】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語では「話すこと」、算数では既習を活用した問題に課題がある。 <指導上の課題> 目的意識をもって、自分の考えを説明する場を十分に設けられていない。	⇒ 学年の実態に合った題材を選定し、目的や意図に応じて話す場を設ける。【月1回】 既習事項の要点をまとめ、掲示する。【単元毎】 単元の導入で、既習事項を確認する。【単元毎】 「式・図・言葉」を用いて表現し、伝え合う活動の時間を確保する。【単元3回】

全国学力・学習状況調査  
<小6・中3>(4月~5月)

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	B	学年の実態に応じたオリジナル漢字テストを月2回作成し、再テストを実施できた。再テストでは、平均点は9点上昇した。暗唱チャレンジを月1回実施できた。他学年の教材からも取り入れたことで、様々な語彙に触れることができ、個に応じた学習ゴールを細分化したことで、意欲をもって暗唱する児童が増え、成功体験を得られる機会となった。「2分間チャレンジ」として、計算問題を作成し、算数の授業で毎時間実施できた。単元に適した内容を作成したことで、知識の定着につながった。今後も四則演算を正確に行えるよう、計算練習の時間を確保する。
思考・判断・表現	B	生活朝会や暗唱チャレンジの司会など、目的や意図に応じて話す場を各学年学期に2回設けることができた。各学級の教室に、算数の「ふりかえりコーナー」を新設することができた。既習事項の要点をまとめたものを掲示したことで、既習事項を想起することができた。単元の導入でも掲示物を利用して、既習事項を毎単元確認することができた。伝え合う活動の時間を単元3回確保することができたが、「式・図・言葉」において「適した言葉」を使って説明できたことを書き表すことに課題がみられた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」に課題がみられた。特に文章の中で同音異義語に注意して、正しく使うことに課題がみられるので、漢字を正しく使う場面を意図的に設け、既習事項を反復できるようにする。算数では、計算問題を「2分間チャレンジ」として取り組んだ成果が表れ、計算力の向上が見られた。「図形」の領域では、図形の性質を基に作図をしたり、図形の性質の理解に課題がみられた。図形を構成する要素に着目し、性質を見いだし、既習の図形を捉え直す活動を充実させる必要がある。単元の導入では既習事項を確認したり、毎時間前時の振り返りを行う時間を確保し、学んだことを確実に確認することで、理解の定着を図り、活用できるようにする。	
思考・判断・表現	国語では、自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることや、目的に応じて文章と図表などを結び付けて必要な情報を見付けることはできる。一方で、「書くこと」に関する内容に課題がみられた。書くことの内容の中心を明確にし、文章の構成を考えたり、目的や意図に応じて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したりすることに重点を置いた活動をより充実させる必要がある。算数では、問題の中から必要な情報を選び出し、筋道を立てて考察し、書き表すことに課題がみられた。問題解決に向けて、問題場面の数量の関係や既習の活用に関心し、思考を図や式、言葉を用いて表現し、言葉で正確に伝え合う場をより増やしていく。	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語では、全学年を通して「言葉の特徴」や「使い方に関する事項」について課題がみられた。特に既習の漢字や同音異義語の正しい使い方について課題があったことから、漢字がもつ意味をとらえて、熟語や文作りを行う活動を増やした。全学年で取り組んでいる漢字の再テストは継続し、漢字の定着を図る。また、主語と述語や修飾語の関係にも課題がみられた。言葉のまとまりや主語と述語を意識して、文を読んだり書いたりする活動を取り入れ、算数では、「図形」や「データの活用」についての領域に関しては、昨年度より正答率が上昇した。図形の構成や性質を見いだし、既習の図形を捉え直す活動を意識した指導を行ったことがつながっていると考えられる。一方で、「数と計算」については今年度も課題がみられた。整数と小数の混合の減法では、引く数の小数点を正確に読み取り、位をそろえて計算していないことが原因と考えられる。また、四則混合計算では、計算のきまりを活用できていない。2分間チャレンジでは、課題を意識した問題づくりを行う。	
思考・判断・表現	国語では、目的を意識して中心となる語や文を見付けて、文章を読むことについて全学年で課題がみられた。また、「話すこと・聞くこと」についても課題がみられた。話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。の肯定的回答は約98%と高く、話し合う活動は充実していることが分かる。一方で、「自分の考えを発表する機会では、自分の考えが上手く伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していますか」の肯定的回答は約83%と減少し、伝えることに関して課題意識があることが分かる。考えの表現の仕方の工夫を意識した活動を充実させる。算数では、場面をとらえ、状況から加法・減法・除法なのかを判断し、立式することに課題がみられた。場面と図を関連付けられるよう、問題場面に適切に図(ブロックや数直線、テープ図、数直線、数直線図)に表す活動を充実させる。また、グラフやデータの読み取りにも課題があったため、各教科において、目的に応じて考察できる場を設ける。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	学年の実態に応じた漢字テストを月2回作成し、再テストを実施できている。 暗唱チャレンジを月1回実施できている。暗唱内容を他学年の教材からも取り入れたことで、様々な語彙に触れられる機会が増えた。 「2分間チャレンジ」として、算数の授業で毎時間実施できている。単元に適した内容を作成したことで、知識の定着が図られている。	引き続き学力向上策を確実に実施していく。
思考・判断・表現	B	学年の実態に合った題材を選定し、目的や意図に応じて話す場を月1回設けることができています。単元によって既習事項の要点をまとめ、掲示できている。 単元の導入で、デジタル教科書を活用しながら既習事項を確認している。 「式・図・言葉」を用いて表現し、伝え合う活動の時間を確保しているが、十分ではない状況がみられる。	算数の掲示において、「ふりかえりコーナー」を新設し、掲示内容を充実させる。【2学期中】 伝え合う活動の時間を確実に確保する。【1日の授業時間の内、算数と他教科で実施】

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)